

検討会議・部会・WS等が出た、このまちに必要な生活機能と施設に関する意見

- ★ 福祉
  - ・ふれあい喫茶などの地域活動や福祉会館の機能など、**いまある地域の福祉活動ができる場**
  - ・診療所を中心に**高齢者や障がい者向けの住宅を集めた福祉ゾーン**を作ってはどうか
- ★ 子育て・教育
  - ・地域の人たちが入り込み**多世代交流が盛んな学校**が作れないか
  - ・地域の人にとって**子ども達を通わせたいと思う学校**が必要
  - ・小中一貫校とすると早くから**上級生の影響**がでないか心配
  - ・ボール遊びできるような、**子どもが自由に遊べる場・勉強できる場**がほしい
  - ・稼働率の低い集会所を**親子連れで使える地域のたまり場**にしてはどうか
  - ・子育て層を呼び込むにあたり、**診療所に小児科を設置**すべき
  - ・**子育てに関する相談や情報が交換**できるような環境があれば子育てしやすい
  - ・にじのとしょかんや青少年センターは**地域の子どものセーフティネット**として機能している
  - ・各集会所のなかに、**小さい図書館**を作れないか
- ★ 交流
  - ・地域の**誰もが使える、集会空間・集い場**
  - ・普段から**気軽にふらっと集まれる場所**をつくっては
  - ・市営住宅の周りに**コミュニティ支援の機能、防災機能などを集約**してはどうか
  - ・**利便施設は、駅前などみんなが利便性の高い場所に集約し移動や買い物を便利**にしてほしい
  - ・**まちの真ん中に地域の象徴である盆踊り**のできるような**みんなが集える広場**をつくっては
  - ・**住宅エリア・教育エリアなどゾーニング**していくことで人の流れも作り出せる
  - ・**新たな施設はまちの真ん中、わかりやすい場所に**
- ★ 住宅・住環境
  - ・地域外も含め、様々な世帯が地域に住めるよう、**多様なバリエーションの住宅**が必要
  - ・市営住宅を出ても、**地域に住み続けられるような住宅**が必要
  - ・**多世代がミックスする多様な住まい**があるまち
- ★ 防災
  - ・**防災活動は、隣保館等のまち全体に関わる施設の機能を活用**すべき
  - ・各集会所に**防災拠点としての機能を整える**
- ★ その他
  - ・**公共施設は地域の実情を踏まえ、ありかたを考える**必要がある
  - ・**地域のやる気のある人が施設の運営に参加**できるようにすればよい
  - ・子育て世帯など、**新たな世帯も引きつけるような目玉・特徴**

地域の施設の状況

- ◆市営住宅
  - 多くの住棟が老朽化。改修や建替等の検討時期に差しかかっている。
  - 空家化や住民の高齢化も進んでおり、コミュニティを心配する声も多い。集会所利用は団地で差がある。
- ◆市営住宅の併設店舗
  - 空き店舗が増えている。交流(すこやかリビング)や地域産業(ガラス工房)、福祉(ともに)など、まちづくりの拠点として活用されている。
- ◆小学校・中学校
  - ほとんどの学年が1クラス。教育環境の充実が期待される施設一体型小中一貫校の導入が検討課題。
- ◆人権文化センター・王子分館・幸分館
  - 施設は老朽化(センター:雨漏・配管等、分館:耐震等)。貸室の利用者も減少。
  - 一方、にじのとしょかんや大会議室などは利用者も多い。市の人権啓発や地区の伝統を知る拠点。
- ◆青少年センター
  - 施設は老朽化(雨漏・配管等)。青少年育成を目的とした貸室のため利用率は低い。一方、三季休におけるどろんこ子ども会の活動、ユースゼネレーション事業(体験活動)、給食事業などは、地域内外からの利用者(子ども)も多い。
- ◆北部総合福祉会館
  - 施設は老朽化(雨漏等)。利用者は横ばい。社会福祉協議会が福祉の総合相談窓口や地域包括支援センターを実施。市の指定福祉避難所。
- ◆和泉診療所
  - 施設は老朽化(雨漏・古い動線等)。地域内アクセスがよく高齢者の利用が多い。来院者は増えている。外来診療のほか、訪問リハなども実施。
- ◆小栗の湯
  - 設備改修が必要な時期。地区外からも一定利用者がいる。
  - 交流の場(バンドや趣味の発表会等)としても使われている。

これまでの意見や施設の状況を踏まえると・・・。

“地域で目指す”まちの生活機能と施設のあり方 (キーワード案)

- ① どこにあるかが**“わかりやすい”**、誰もが**“集まりやすい”**場
- ② 地域住民と地域にやって来る人の誰もが**“使いやすい”**場
- ③ そこに行けば**“交流でき”**、様々な**“サービスの利用”**が叶う場
- ④ やる気のある人が、これまでの取組みを広げ、新たな活動を興せる**“受け皿”**となる場
- ⑤ 若者・子育て世帯などが**“来なくなる”****“住みなくなる”**場

このまちの「大切な目線」+まちの将来のキーワード (これまでの意見を元に・・・)

- ①できることから「段階的」に。 ⇒目の前のことから徐々にまちをつくりかえていく
- ②「地域住民」と「これから来る住民」の**くらし第一**。  
⇒今のくらしを大事にしつつ、将来は“住みたい”と思われるまち
- ③基本は「**コミュニティ**」。多様な人を受入れ・サポート。  
⇒みんなが集い、支えあいながら暮らす「モデル」となるまち
- ④取組みは「**地域(住民・団体)」「市」「学校」「民間事業者」等の「協働型」**で。  
⇒協力して魅力的なまちをつくっていく、地域内外から訪れたいくなるまち  
⇒学校などの拠点から地域につながっていくまち
- ⑤次世代の子ども・若者を**地域一丸で呼び込み・育て・交流**。  
⇒子どもを増やす特長づくりと信頼関係。子ども・若者・親を育て・支えるまち